

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

13の経済開発区のマスタープラン策定

2015年1月14日発『朝鮮中央通信』によれば、北朝鮮にある経済開発区のうち、2013年に設置された13の経済開発区（清津、鴨緑江、満浦、恵山の各経済開発区、興南、現洞、渭原の各工業開発区、穩城島、新坪の各観光開発区、松林、臥牛島の各輸出加工区、漁郎、北青の各農業開発区）のマスタープランが策定された。今後、平壤や羅先で行われる商品展覧会や各国で開かれる展覧会、展示会等で同計画を紹介する投資説明会が開かれることになっているという。

平壤子ども食料品工場で機能性食品を開発

2015年1月17日付『朝鮮新報』は、平壤市の平壤子ども食料品工場で機能性食品を開発していると報道している。2014年12月16日発『朝鮮中央通信』は、金正恩第1書記が同工場を訪問し、「工場の製品と世界的に有名な子ども栄養食品を比較分析して製品の質を最高レベルに引き上げ、子どもの成長と発育に必要な新製品を開発する活動にも力を入れるよう」指示したと伝えている。

北朝鮮の農業生産の増加

2015年1月27日付『朝鮮新報』は、2014年の北朝鮮の農業生産について「干ばつによる被害にもかかわらず、収穫量が571万tと昨年より5万t増加した」と語った朝鮮の収買糧政省副相の発言を紹介する2014年12月13日発ロシアの『イタル・タス通信』を引用した。

このような農業生産の増加の要因を『朝鮮新報』は「少人数に一定の圃田を任せて、土づくりと稲苗の育成、収穫にいたるまでの全ての工程を任せ、その実績をもとに分配

を実施」する圃田担当責任制の導入によるところが大きいと分析している。

全国農業部門分組長会議開催

2015年3月5日付『朝鮮新報』は、「業績アップで円滑な資金循環」と題して、北朝鮮の金融分野における変化と社会主義商業部門の「復活」について報じている。現在、中央銀行は「経済復興のための資金需要を国内の資金を円滑に循環させることで解決」しようと試みており、具体例として「新たな金融商品の普及による資金循環」、「人民生活領域におけるカード、電子マネーの活用」があると中央銀行総裁の発言を引用している。

本来的には、すでに立法が行われている商業銀行を創設すべきところなのであろうが、資金の出所を問わない預金の受け入れには、まだ社会的な抵抗感が大きいのであろうか。

南北経済協力の動向

(1) 南北交易額

韓国・統一省が2014年の南北交易額を発表した。委託加工貿易は2012年以来ゼロとなっている。一般貿易も17.8万米ドルと微々たるものであり、ほとんどが開城工業地区との取引であった。前年とは異なり、2014年の開城工業地区での生産は順調で、南北交易額、開城工業団地の交易額とも過去最高を記録した。

(2) 人的交流

観光を除く南北間の往来を見ると、表2のとおり、南から北への訪問が12万9,028人、北から南への訪問は366人であった。12年を超える人数に回復した。

(ERINA調査研究部主任研究員 三村光弘)

表1 1989～2014年の南北交易統計

(単位：1,000米ドル)

年度	搬入			搬出			合計
	計	うち委託加工	うち開城工業団地	計	うち委託加工	うち開城工業団地	
1989	18,655	0	0	69	0	0	18,724
1990	12,278	0	0	1,188	0	0	13,466
1991	105,719	0	0	5,547	0	0	111,266
1992	162,863	638	0	10,563	200	0	173,426
1993	178,167	2,985	0	8,425	4,023	0	186,592
1994	176,298	14,321	0	18,249	11,343	0	194,547
1995	222,855	21,174	0	64,436	24,718	0	287,291
1996	182,400	36,238	0	69,639	38,164	0	252,039
1997	193,069	42,894	0	115,270	36,175	0	308,339
1998	92,264	41,371	0	129,679	29,617	0	221,943
1999	121,604	53,736	0	211,832	45,883	0	333,437
2000	152,373	71,966	0	272,775	57,224	0	425,148
2001	176,170	72,579	0	226,787	52,345	0	402,957
2002	271,575	102,789	0	370,155	68,388	0	641,730
2003	289,252	111,639	0	434,965	73,370	0	724,217
2004	258,039	107,746	52	439,001	68,213	41,634	697,040
2005	340,281	131,226	19,794	715,472	78,503	156,943	1,055,754
2006	519,539	159,387	75,943	830,200	93,571	222,853	1,349,739
2007	765,346	204,519	101,179	1,032,550	125,393	339,498	1,797,896
2008	932,250	257,345	290,103	888,117	150,965	518,342	1,820,366
2009	934,251	254,044	417,935	744,830	155,670	522,617	1,679,082
2010	1,043,928	222,505	705,268	868,321	95,054	737,588	1,912,249
2011	913,663	3,704	908,935	800,192	0	788,698	1,713,855
2012	1,073,952	0	1,073,128	897,153	0	892,976	1,971,105
2013	615,243	0	614,649	520,604	0	517,524	1,135,847
2014	1,206,202	0	1,205,771	1,136,437	0	1,132,038	2,342,639

(出所) 韓国・統一省『南北交流協力動向』各号

表2 2006～14年の南北間の人的交流統計(観光を除く)

(単位：人)

年	南→北	北→南	合計
2006	100,838	870	101,708
2007	158,170	1,044	159,214
2008	186,443	332	186,775
2009	120,616	246	120,862
2010	130,119	132	130,251
2011	116,047	14	116,061
2012	120,360	0	120,360
2013	76,503	40	76,543
2014	129,028	366	129,394
累計	1,138,124	3,044	1,141,168

(出所) 韓国・統一省『南北交流協力動向』2014年12月号